

# 先週の回答

## 諸行無常



「『十歳にしては菓子に動かされ、二十歳にしては恋人に、三十歳にして快樂に、四十歳にしては野心に、五十歳にして食欲に動かされる。いつになったら人間はただ叡智のみを追って進むようになるのであるか』と、フランスの思想家ルソーという人は、人間の一生を心配したようだが、十歳にしてお菓子ではなく、駒に動かされた人の話をしよう」

「駒って何ですか？」

「将棋の駒だよ」

「お父さん、将棋の駒に動かされるわけじゃないでしょう。将棋の駒を動かしたんじゃないの？」

「黙って聞け！この減らず口！」

「へらぐちちって・・・」

「羽生善治を知っとるだろう？」

「知りません」

「小学三年で初段、四年生で四段、五年生で五段のアマ強豪となった中学生棋士を知らんのか？」

「知りません」

「圧巻は十七歳で天王戦優勝。十八歳で大山康晴、加藤一二三、谷川浩司、中原誠と、当時現役の名人経験者四人をすべてを破って、驚愕の若手棋士を睨目され、不出世の天才、こんな優れ者は二度と現れないと騒がれたのは覚えてるだろう」

「覚えていません」

「ところが、万物は流転する（ヘラクレイトス）。水の流れと人の身はと言うだろう」

「さあ・・・」

「盛者必衰、会者定理」

「・・・？」

「藤井聡太という子が現れた」

「それなら知ってます。数日前の新聞に載ってましたから。十四歳で叡王戦の予選で勝って、プロ初戦から連勝を『25』と伸ばし歴代単独2位に浮上したと思いきやその後も連勝し、十四歳にして歴代1位の『29』連勝を記録してしまつた。恐ろしい怪物の出現ですね」

「美しく咲いてる花も、いつまでも咲きつづけることはできない・・・。いつか新しい若々しい花にとって代わられる」

「何が言いたいんですか？」

「お父さんは諸行無常を感じる・・・」

「と、おっしゃいますと？」

「世代交代は世の習い。自分の子のような若者が入社してくると、しみじみオレの時代は終わったと思うことがある・・・」

「お父さんの時代なんてあったの？」

「・・・」



# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。